

西山 文愛

1. 事業実施の目的

- ①博士論文研究のための調査地選定。
- ②現地研究者との面談および調査手続きに関わる活動

2. 実施場所：マレーシア，サバ州

3. 実施期日：平成 28 年 6 月 16 日（木）から 8 月 23 日（火）

4. 成果報告

●事業の概要

今回の予備調査において実施した活動は、(1) 現地予備調査、(2) 調査手続きに向けた現地研究者と面談の 2 つである。調査手続きに係る活動はサバ州の都市コタキナバルで実施し、現地予備調査はペナンパン郡、ナバワ郡において、先住民のドゥスンの人たちとムルットの人たちを対象に実施した。

- (1) 現地調査活動では、ペナンパン郡でドゥスンの人たちの 5 つの村、ナバワン郡でムルットの人たちの村を訪問し、次年度からの調査地の選定をおこなった。

ペナンパン郡では山岳地帯に位置する 3 つの村と市街地に隣接しているに 2 つの村に滞在した。それぞれの村の滞在期間は、山岳地帯では A 村に一カ月、B 村に 1 日、C 村に 1 週間滞在し、市街地に隣接している村では、D 村に 2 週間、E 村には徒歩で 2 回来訪、ナバワン郡のムルットの村には 1 週間滞在した。

滞在中には、それぞれの村において、動物種・植物種の同定作業を中心におこない、鳥類を中心とした動物との関わり方と、生業形態や生活に関する聞き取り調査を実施した。その結果、現在も日常的に狩猟をおこない、鳥類を中心とした動物との関わりが深いドゥスンの人たちを対象に、ペナンパン郡を次年度からの調査対象地として選定した。

- (2) 調査手続きに係る活動では、サバ大学での研究者との面談をおこない、調査地の紹介および、調査許可書の発行をしていただいた。その際に、可能な調査形態に関して示唆を得ることができ、来年度からの調査実施に関して現実的な見通しを得ることができた。今回のサバ州訪問では、現地の研究者の助力を得つつ、当初行う予定だった活動を実施することができ、結果としてすべての目的を達成できた。

●本事業の実施によって得られた成果

本事業では、次年度からの長期滞在調査に向けて以下の活動を実施した。結果として以下に述べる成果を達成あげることができた。

(1) 予備調査では、サバ州において適切な調査地を選定するとともに、当該調査地において人びとと動物との関わり方についての聞き取り調査および、生業や生活に関する調査を実施することが出来た。具体的には、村の人たちが、どのように動物と関わりを持っているのか、狩猟採集を中心とした、生業、農作物、家畜や生活パターンに関する聞き取り調査をおこなった。

また、鳥の鳴き声と、罨猟で捕獲した鳥類の同定作業を中心に、村で狩猟採集する動物種の同定作業および利用方法の調査をおこなった。

さらに、狩猟や農業、ゴム採集といった生業の聞き取りのほかに、鳥類の動きや声を模したダンス「スマザウ」の様子や、鳥にまつわる民話の聞き取りをおこなった。ナバワン郡での調査は1カ月間の短期滞在であったが、次年度からの調査の詳細な研究計画を作成するための土台を築き上げることができ、大変有意義であった。

(2) 次年度からの長期調査に向けて、サバ州では調査許可を得る必要がある。サバ大学の教授との面談で、受け入れ機関として前向きな返答をいただくことができ、次年度からの調査に必要となる手続き等に関する協力をはじめ、現地滞在中の責任機関としての協力を得られる見通しが立った。

次に、調査実施対象地からの調査許可に関しては、村レベルでの許可が必要となる。ナバワン郡の村で訪問した村長との面談においても、次年度からの調査に関して協力を得られる見通しを立てることができた。これらの結果として、次年度からの長期滞在型調査実施に向け、州や村からの調査許可を申請するための具体的な準備が出来た。

サバ州での調査においては、調査許可の取得の難しさが一般的に知られている。しかしながら、本事業の実施によって、現地へ赴き研究者や村長との面会により、次年度からの調査について明るい展望がもてたことは、非常に大きな成果であった。今回の調査で得られた知見や成果を論文として公表し、積極的な発表をおこなっていくとともに、博士論文の執筆を進展させていきたい。

●本事業について

報告者が円滑に現地調査を遂行し、無事に帰国できたことは本事業の援助があつてのことです。厚くお礼を申し上げます。本事業は学生の研究活動を進捗させるために、非常に有益なものであり、今後も事業継続を強く望みます。